（参考２）

遺伝子組換えワタによる我が国の生物多様性への影響について（農林水産省及び環境省の共同見解）

１　論文等の情報にもとづけば、ワタ（*Gossypium hirsutum*.L）の一般的な性質として、以下が挙げられる。

①　原種は多年生だが、栽培種は種子繁殖する一年生作物である。

②　ワタと交雑可能な近縁の野生種で、日本国内に生育する植物は知られていない。

③　多湿の環境下において、ほ場に残った種子は通常は次のシーズンまで生存しない。

２　見つかった遺伝子組換えワタは、「食用又は飼料用に供するための使用、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為（こぼれ落ちて生育することを含む）」について承認申請がなされ、競合性、有害物質の産生性、交雑性について審査した結果、生物多様性影響のおそれはないと評価されたものである。

３　これまで、栽培についての申請はなされていないが、１及び２のことから、仮に栽培されたとしても我が国の生物多様性への影響が生ずるおそれはないと考えられる。